

令和7年度 社会福祉法人至誠会 事業計画

<はじめに>

令和6年の年末から施設内でコロナ感染症のクラスターが発生し、お正月返上で対応にあたった。ひと月で利用者の2割が罹患し、現場は困難極めたが職員は一丸となりこの難局を乗り越えた。日頃の危機管理が実践されたおかげであると評価できる。しかし、感染症は克服できたが後遺症のような形で衰弱者が多発し、利用者の1割が死亡した。感染症関連死という過去に経験のない事態になったわけであるが、今後も起こりうる事象として真剣に捉えていかねばならない。

<至誠会を取り巻く現状>

- ① 団塊の世代が75才を迎える「2025年問題」の年に突入しているので、高齢者の介護需要は増加する予定である
 - ② 自宅介護力の低下は否めない事実になってきている
 - ③ 諸経費、委託費の上昇は今後が続くと見込まれる
- 介護需要に対して法人が経営体力を維持し続け、地域に貢献し続けなければならない。

<至誠会内部の現状と課題>

- ① 死亡退去が続いても順調に満床を維持している。しかし待機者が多くいるわけではない
- ② デイサービス利用者数は頭打ちである。その理由は明らかではない
- ③ 土曜日のデイサービス中止の影響は最低限に留まっている

<今年度の事業目標>

- ① 「ケアハウス」という「あいまいなイメージ」を打破する。みどりの風は医療も看護もリハビリもあり、看取りまで責任をもってお預かりしている軽費老人ホームであるという実態に即した宣伝が必要である
- ② みどりの風のデイサービスも同様に、医療・看護・リハビリがそろった珍しい通所介護施設であるというセールスポイントを明確にし、対外的に宣伝することにより利用者確保を図る必要がある

理事長 三輪 誠

(1) 法人本部事業計画

- ① 基本理念
- ② 実践目標
- ③ 組織図
- ④ 委員会構成
- ⑤ 理事会・評議員会・監事
- ⑥ 行事・研修会・各種委員会など
- ⑦ ICT化の推進
- ⑧ ケアハウス事業と通所介護事業の交流推進
- ⑨ 地域貢献活動
- ⑩ 防災の取り組み
- ⑪ 研修計画
- ⑫ 広報活動
- ⑬ 志太会との連携
- ⑭ ケアハウス事業計画
- ⑮ 通所介護事業計画

「地域を支える、地域で看取る」

人は住み慣れた地域で、なじみの方々とともに最期まで暮らし続けることを望みます。三輪医院グループはそのために最大限の努力をします。

（福）至誠会の理念

「ノーマライゼーション」

人は認知症などの障害を有しても、普通の暮らし、平穏な暮らしを営む権利があります。至誠会はその権利が損なわれることがないように最大限の援助をします。

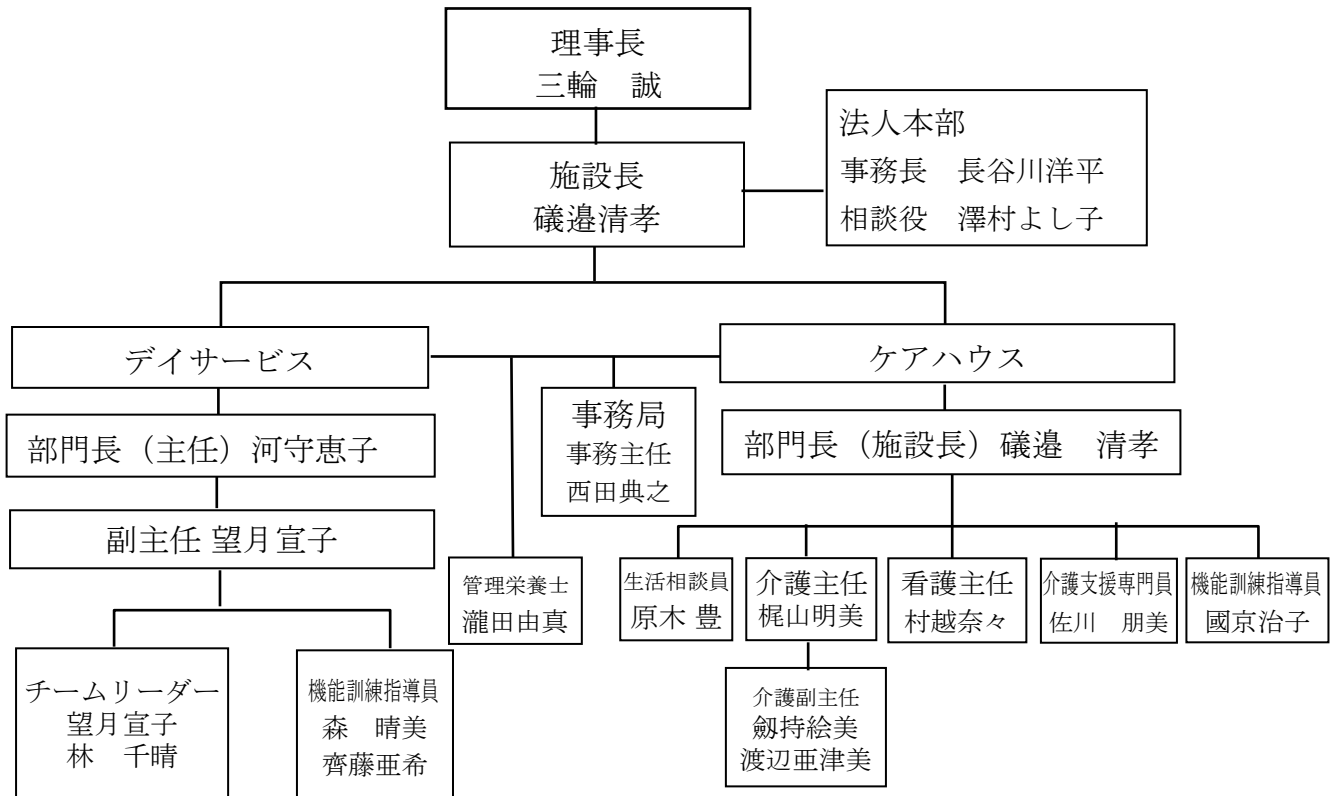
実践目標

ノーマライゼーションの理念に基づいて、医師が常駐しているという利点と、地域出身の利用者が多いという特徴を生かし、以下の3つの喜びを提供します。

- (1) 健康である喜び
- (2) 尊重される喜び
- (3) 動ける喜び

- * 健康管理と苦痛の除去(病気の早期発見、早期治療)
- * パーソンセンタードケアの実践(個性の尊重、人生の評価)
- * リハビリの実践(生活援助すべてをリハビリと考え、実践)

組織図



委員会構成

委員会	委員名
防災委員会	礒邊 原木 河守 柳原 瀧田 片山 渡辺 岩堀 田平
給食委員会	礒邊 河守 瀧田 劔持 小沢
感染予防委員会	礒邊 河守 増田（一） 増田（和） 村越（奈） 杉本 渡邊 永田 瀧田
事故対策委員会 （身体拘束・虐待含む）	礒邊 河守 武藤 前嶋 望月

理事・評議員・監事

理事長	三輪 誠	評議員	岡本 康雄
理 事	長谷川 洋平	評議員	清水 章子
理 事	西田 典之	評議員	蒨田 延雄
理 事	澤村 よし子	評議員	萩原 俊正
理 事	河守 恵子	評議員	山口 良成
理 事	礒邊 清孝	評議員	大石 礼子
監 事	一ツ田 良夫	評議員	中山 與之助
監 事	平野 仁		

令和7年度 年間予定

月	法人本部	ケアハウス	デイサービス
4		花見外出	13周年お祝いの会 桜・藤花見
5	監事監査 理事会（決算報告・事業報告）	防災訓練	バラ花見 新茶の会 部門内勉強会(入浴)
6	評議員会（定期総会） 新理事会	運動会	あじさい花見
		防災訓練（水害想定避難訓練）	
7			部門内勉強会(身体拘束・虐待)
8		七夕	七夕の会 納涼会
		防災訓練（消火訓練）	
9		敬老会	彼岸花花見 敬老会 認知症ケア事例検討会
10		秋祭り ふくし・かいご作品展	コスモス・菊花見 運動会
		総合防災訓練 感染予防講習会	
11		感染予防講習会	家族交流会 恵比寿講 紅葉見学 味噌作り 部門内勉強会(防災)
12	理事会（補正予算）	忘年会	忘年会
		防災訓練（情報伝達訓練）	
1		新年会	新年の会 部門内勉強会(入浴)
2		節分の会 炊き出し訓練(けんちん汁)	節分の会 梅・河津桜花見 認知症ケア事例検討会
3	理事会（最終補正予算・次年度予算・事業計画）	御花見 外食	木蓮花見 事故事例検討会
		防災訓練（消火訓練）	

通年実施事業

ケアハウス	デイサービス
・喫茶の時間（毎週火曜日午後） ・売店の実施（毎週金曜日午後） ・園芸クラブ（不定期）	・園児交流会 ・ケアカンファレンス・サービス担当者会議 ・クラブ活動（園芸・調理・作品・手芸・音楽・なごみ）・回想法 ・ボランティア受け入れ
事故対策委員会(身体拘束・虐待含む)・感染委員会・防災委員会・リハビリ会議・給食委員会(不定期) ユニケア岡部と合同開催：活動交流集会	

<ICT 化の推進>

- ① 志太会と至誠会の各部署がワイズマンの「MeLL+」を活用し情報共有を密に行うことで紙媒体の削減を図りサービス提供者として質の向上を目指す。
- ② ご家族の面会、外部研修への参加、グループ法人内での会議の運営等、インターネット機能を活用した方法で継続的に実施していく
- ③ 可動式介助バー、離床センサー等、福祉機器の導入を検討し入居者、職員にとって安心、安全な環境整備に努める。
- ④ Instagram 等の SNS を活用し施設の魅力発信に努め地域の方々をはじめ多くの人たちにケアハウスみどりの風・おかべを知っていただく

<ケアハウス事業と通所介護事業の交流推進>

- ① 介護・看護職員の交流
欠員時の相互補助や交流研修を実施することで、危機管理対策機能の向上を目指す
- ② 設備面（機械浴槽・リハビリ室）における相互活用

<地域貢献活動>

- ① NPO法人「やまぼうしクラブ」が主催する地域の方を対象とした催しへの参加・支援・協力
- ② 秋祭りの開催。入居者、ご家族、地域の方を対象としたお祭りを開催する
- ③ 介護人材の育成。
学生の実習受け入れ施設として申請。デイサービスでの受け入れ体制を整え介護人材育成に協力する
- ④ 岡部中学校より職場体験学習（5月）の受け入れ。介護の魅力、やりがい、楽しさを学んでいただく
- ⑤ 法人の Instagram を活用し、地域で開催されるイベントの告知や他施設の行事の宣伝、静岡県藤枝市（岡部町）の発信源になるような活動をしていく。

<防災の取り組み>

- ① 水防訓練（岡部聖母保育園と連携（園児避難受け入れ想定）も図る）に実施
- ② 地震・火災想定避難訓練（10月予定）
- ③ 消火訓練（年2回以上）参加職員を入れ替えることで同一内容の訓練を複数回実施する
- ④ 部署ごとのグループ LINE や安否コールを活用し情報伝達訓練を行う事で緊急時に備える
- ⑤ 非常用自家発電機の設置。毎月行われる防災委員会内にて試運転を行い非常時に備え操作方法を学ぶ
- ⑥ 業務継続計画の周知。防災委員が中心となり、災害時の対応を周知徹底するための研修や訓練を計画、実践する。

<研修計画>

年間研修計画の作成

- ① 法人内またはグループ法人内で企画する研修
・「BCP」「身体拘束の廃止と予防推進」「感染予防講習会」
「虐待防止」「褥瘡予防」「事故防止」「防災」等
- ② 外部研修
・静岡県老人福祉施設協議会・静岡県社会福祉協議会・静岡県介護福祉士会等が企画する研修案内を掲示し自主的な参加を促していくと同時に、職員の適正に合わせた研修参加も可能にしていく。
オンライン研修を有効に活用し学びの場を確保する。

＜広報活動＞

- ① Instagram を開設し全国約 2000 カ所の福祉施設からフォローをいただいている。
施設の中の様子として入居者様の生活の様子、空室状況等を外部へ発信していく。
- ② 福祉研究大会へ参加し施設の取り組みを発表。自施設を知ってもらう事と、他施設との交流を図る場として参加をする。
- ③ 福祉相談会等へ参加しケアハウスみどりの風を知ってもらう事、将来的に就職へ結び付く活動として参加を検討していく。
- ④ 地域包括支援センターや藤枝、焼津の社会福祉協議会との連携を促進し、「特定施設」としての周知に
取り組み、常時 5 名以上の待機者確保を目指す。

＜志太会（老健ユニケア岡部・通所リハビリ・居宅事業所・訪問看護）との連携＞

- ① 空室状況の共有。空室を埋めるための情報共有を常に意識して稼働率を確保する。
- ② 通所会議：3 時間リハビリ・デイケアと連携し、利用者様の状態に合った事業所利用について提案する

(2) ケアハウス事業計画

<実践目標と行動計画>

- 1 医師、看護師、機能訓練士、介護士が常駐し 24 時間体制で毎日の暮らしを支えている
- 2 「ノーマライゼーション」の理念のもと多くの入居者の生活を支え多くの方の最期を看取ることができている。一方、入居者の高齢化と認知症の進行により介護困難な例が散見されているがこの変化に対応できる人材育成や各専門職のスキル向上を目指していく。
- 3 入居者の生活を守りご家族へ安心を提供していく為に出来ることを模索し続ける。

<健康管理と苦痛の除去>

- ① 医師が常駐している。定期診察・緊急時の往診・終末期の看取り医療など対応が可能
- ② 看護師からの正確な病状把握、スムーズな医師への報告
- ③ ミーティングでの医師との情報交換

<パーソンセンタードケアの実践>

- ① 全体会議の充実
- ③ ケア会議の充実。施設ケアマネの進行によるケアプランに基づいた会議
- ④ 現場職員が 2 階 3 階全体に関わることでチームケアの実践を行い専門性を駆使した個別ケアの実践を目指していく

<リハビリの実践>

- ① 集団と個別のリハビリを実践することで機能維持に努めていく。
集団体操は介護職員がサポートに入ることによって継続的な活動の場を提供していく
- ② 職員全員が生活援助全てをリハビリと考え、実践する
- ⑤ 新規や退院時の入居者受け入れの際、事前にデイサービスのリハビリ職員と連携を図りリハビリの実践に関し情報を共有していく
- ⑥ 3 階リハビリ室の使用方法を管理し午前と夕方はケアハウス入居者、昼から夕方にかけて通所利用者にご利用いただく
- ⑦ 月末に行われる月 1 回のリハビリ会議に施設長、リハビリ部門長、デイサービス部門長、3 人のリハビリ職が参加し部署を越えた情報共有と連携に繋げていく。

<感染症対策>

- ① 医師と連携し日頃から感染症に関する正しい知識と情報を把握。感染症発生時は初動対応を柔軟且つ迅速に行う。
- ② 静岡県の情報に基づきその都度面会や外出等の対応を検討しご家族へ報告する。
- ③ 感染症マニュアルに沿って日頃から予防に努め感染者発生時には迅速に対応。
感染委員会にてマニュアルの更新を適宜確実に実施する
- ④ 職員は施設に持ち込まない・入居者様に感染させないことを意識し入居者様の生活を守る
- ⑤ 2 階・3 階共に 18 室を 2 ゾーンに分け 9 名単位で生活し、日頃から感染の拡大を防止する

(3) 通所介護事業計画

<実践目標と行動計画>

- ① 14 年目を迎えた今、地域の多くの皆様に「みどりの風」の存在を知っていただき、より深い信頼関係が広がっていることを実感している。
地域に寄り添い、地域を守る…更なる創意・工夫で「みどりの風で良かった!」「みどりの風なら!」と感じていただけるデイサービスへと成長していきたい。
- ② 期的な視点で「安定したデイサービスの運営」に取り組み、三輪医院グループの一つとして役割を果たしていく。

「サービスの更なる創意と工夫」

- 1)「デイサービスご利用アンケート調査」「外部アンケート調査」を実施する。
- 2) アンケート結果を基にニーズを明確化し、求められている課題の整理・具体的な実践へと繋げていく。
- 3)早番・遅番体制等の充実を図り、安心へと繋がるサービスの創生に努めていく。

「長期的視野での安定運営」

- 1)一日の平均利用人数を 33 名とする。
- 2)月間利用人数の目標を 700 名とし、ご本人の状態やご家族の都合に合わせた臨時利用や、受診・ショートステイによる欠席時の振替利用のアピールを積極的に行い、空席の有効利用に努めていく。
- 3)ケアマネ事業所を営業開拓し、新規利用者の獲得に努める。

「働き易い職場環境づくり」

- 1)入浴介助、認知症ケアなどの勉強会・事例検討会を開催し、介護の質を高める。
- 2)危機管理対策(災害・感染症・事故等)の見直しや学びで理解を深め、実践へと繋げる。
- 3)デジタル環境の整理に取り組む。